

令和八年度 鍵谷祭協賛垣生中俳句会（春季） 入賞作品

金賞

「先輩」と呼ばれて戸惑う入学式

二年一組

初々しい感覚がよく出ていますね。新年度を迎え進級したものの、まだ新入生の気持ちに抜けな
い自分が、下級生から突然「先輩」と呼ばれてしまう。その違和感と照れが、「戸惑う」の一語に
自然に込められています。入学式という季語も、人生の立場が切り替わる瞬間を支えていて、内容
とよく合っています。

誰しも経験しうる「立場が急に変わる瞬間」を素直につかんで
いて、共感のある一句になっています。

銀賞

そでとおすかたい制服新生活

一年一組

小学生の頃は私服での登校だったと思いますが、中学生からは「制服」―標準服での登校になり
ました。慣れないワイシャツ、ブラウス。締めにくいホックや時間のかかる棒タイ。何もかもが新
鮮でこれからの生活に対する期待や不安が感じられます。

「かたい」という言葉の後がすべて漢字表記になっており、そのかたさを表現できているのでは
ないでしょうか。これから中学校生活を送る中でその制服も少し
ずつ馴染んでいくと思いますが、この新学期の新鮮な気持ちはい
つまでも変わらず持ち続けたいものです。

銀賞

ボール追い見上げる空は五月晴れ

一年三組

新学期から二ヶ月が経過し、いよいよ市総体を迎えます。少しずつ暑さも厳しくなり、部活動の
熱量も上がってきました。そんな中で、この俳句はどこか爽やかさを感じる句になっています。

中七に見られる「見上げる」という言葉。本来の活用体系であれば「見上げる」になるはずで
すが、この言葉遣いが見事で、俳句にアクセントを生んでいます。来年見上げる五月晴れの時期を今
より成長した姿で迎えられることを祈っています。

銅賞

脱ぎ捨てた上着の軽さ春惜しむ

一年四組

気温が少しずつ上がり、入学後の緊張も和らぎ始めた頃です。「捨てた」「軽さ」の言葉選びが巧みで、上着と心の重みを自ら解き放した清新さと中学校生活への期待の高まりを感じさせます。同時に「春惜しむ」とあるので、作者の「大好きな春」との別れや不安感も詠み取れます。体感から入り混じる心情を表現した余韻の残る句となりました。

く肌照らす強き日射しに春惜しむ 令和七年度卒業生く

銅賞

入学式先輩後追う校歌かな

一年四組

垣生中学校は、今年度創立八十周年を迎えます。「日の出づる石鎚の峰く♪」この校歌を何人の先輩方が歌い紡いできたのでしょうか。作者は「先輩達のように上手に歌えるようになりたいという思いをこの句に込めました。」と発表しました。切れ字「かな」を用いることで、体育館に広がる校歌の響きや中学校入学への喜び、先輩への憧れを強く表現した句となりました。

銅賞

花吹雪頭に乗った髪飾り

二年三組

「花吹雪」と「髪飾り」の取り合わせが、春らしく華やかです。桜の花びらそのものを髪飾りに見立てる情景が自然に立ち上がっています。この句の魅力は、春の軽やかさと、少女的・和装的な美と、偶然の一瞬を素直に捉えている点です。中学生らしい瑞々しさのある一句となっています。

入選

夕食や優しく香る豆ご飯

一年一組

青空に命つなぐ鯉のぼり

一年一組

垣生の町優しく包むつつじ色

一年一組

新学期ふみだす一步は勇気の証

一年二組

制服に慣れて出発こいのぼり

一年二組

車窓から広がる金の麦畑

一年三組

新緑や風にほどける光かな

一年四組

箸つかみ立ちはだかるは豆ご飯

二年二組

新学期教室前で息を呑む

二年二組

譜面台隠すテストの折り目かな

二年三組

春風や名前呼ばれてふりむけず

二年三組

自由曲譜読みに追われ夏近し

二年四組

時鳥次の主役はオオルリか

二年四組

愛犬と瞳合わせる春うらら

二年四組

弟の声響き渡る入学式

三年二組

香り立つ母の手作り苺ジャム

三年四組

夏来たるぬくもり感じる衣がえ

三年四組

